

(様式2)

令和8年3月12日

京丹後市議会議長 中野 勝友様

会派名 無会派  
代表者氏名 松本 聖司

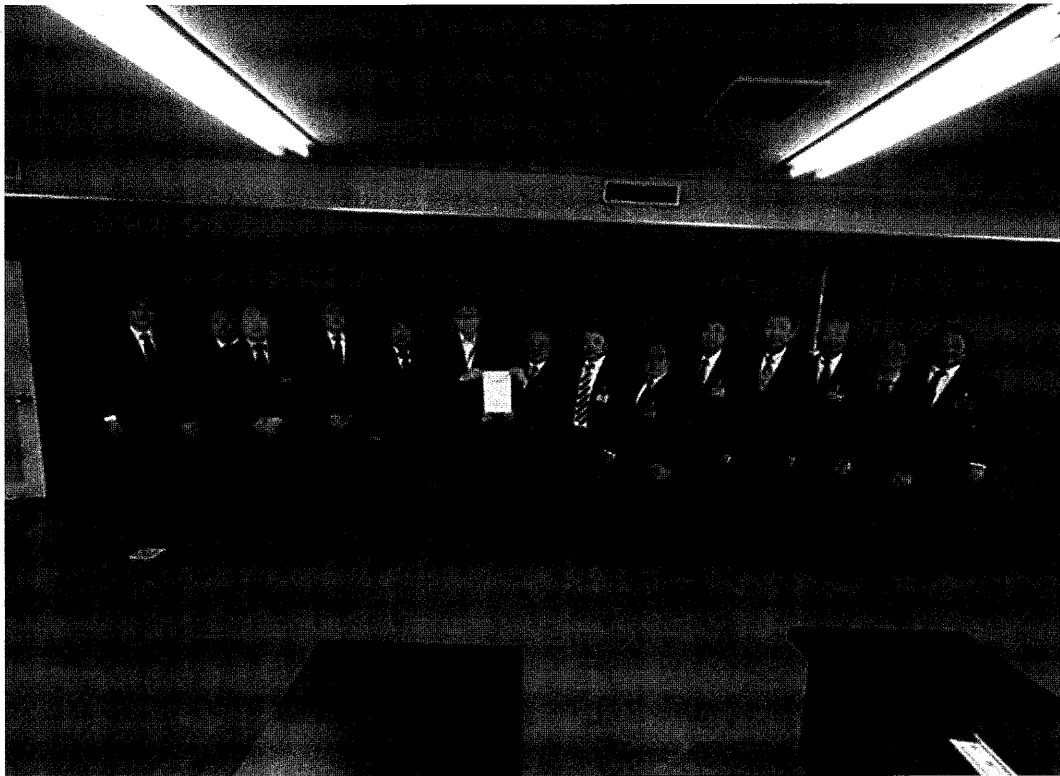
## 調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

## 記

- 1 日程 令和7年10月28日(火)
- 2 場所
  - (1) 近畿中部防衛局 丸山幹夫局長
  - (2) 近畿地方整備局 東岡地域道路調整官
  - (3) 京都府建設交通部 石井弘明部長
- 3 目的
  - ・京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟の活動目的のための要望書手交
- 4 該当する政務活動費の用途項目
  - ・要請陳情費
- 5 支出経費の内訳と金額
  - ・レンタカー借上げ費用等の6分の1 ¥2,020円
- 6 参加議員名
  - ・松本聖司
- 7 活動成果の概要
  - I. 近畿中部防衛局 丸山幹夫局長  
近畿中部防衛局長の丸山氏を訪問。入室後、直ちに順次名刺交換をし、要望書の手交を行う。その後参加者全員で写真撮影の後、着席。  
池田会長から継続事業に対する御礼と要望書に記載のある内容について、個別に説明をした。丸山局長からは、宇川通信所の設置運営に対し感謝の言葉とさらなる

京丹後市の安心安全に努めるとの発言があった。また、(仮称)屏風岩橋の事業化については厳しいとの趣旨の発言があった。私(松本聖司)からは民生安定事業の予算で実施していただいている峰丹バイパスの改良工事や五箇バイパスの進捗について、地域の考え方を十分に受入れて設計・工事を進めていただき、防衛省に対する地域の信頼が増していることを申し上げた。

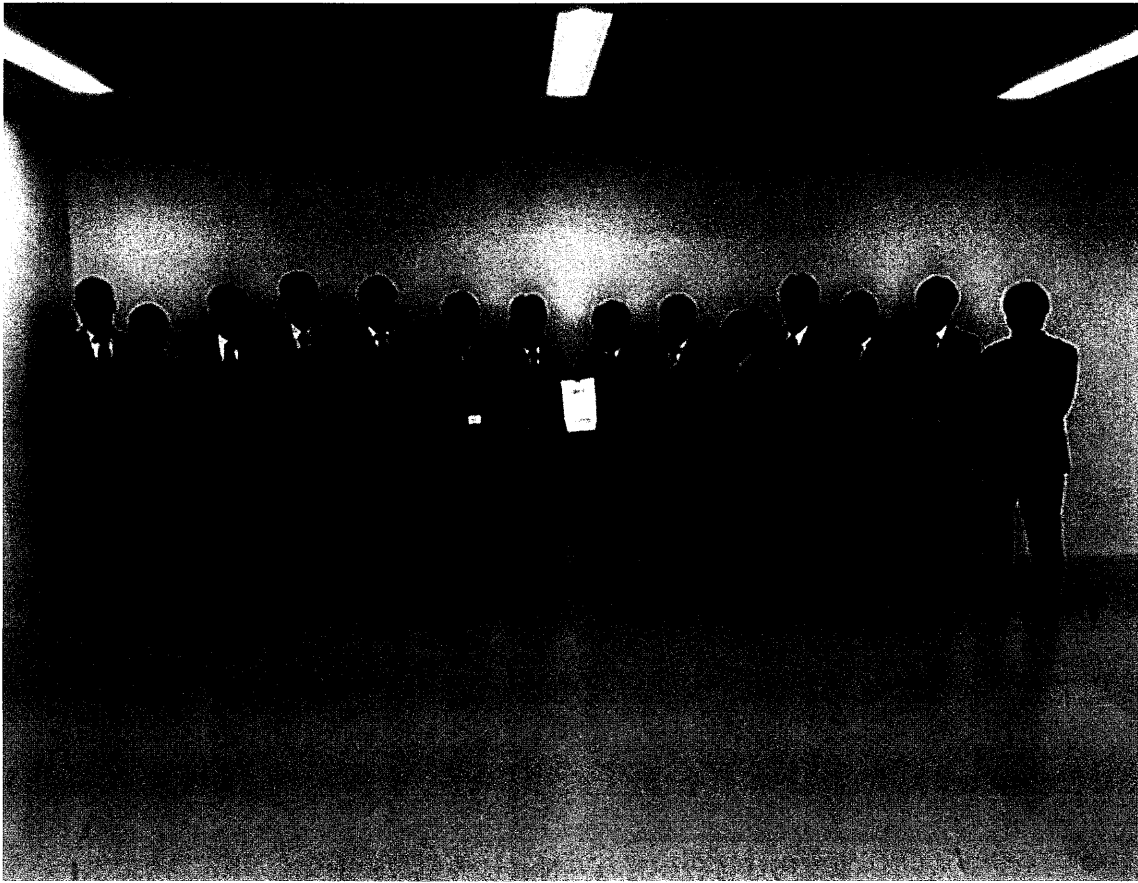


近畿中部防衛局において丸山局長に要望書の手交

## Ⅱ. 近畿地方整備局 東岡地域道路調整官

近畿地方整備局道路部長の東岡氏を訪問。入室後、直ちに順次名刺交換をし、要望書の手交を行う。その後参加者全員で写真撮影のあと着席。池田会長から、要望書に沿って、具体的な要望内容及び必要性について説明した。私(松本聖司)からは、京丹後市は半島地域であり、南側と西側が人と物流の流れとなっている。しかしながら、山陰近畿自動車道の整備が遅れており、ボトルネックとなっている。民間の投資についても、全線開通の目途が示されていないので民間の投資についても躊躇する状況であると聞いている。全線開通時期を早期に示されることが大事である。と意見した。

東岡地域道路調整官からは、山陰近畿自動車道の必要性も承知している。令和10年土居の全線開通の要望は、京都府管理の補助国道となっているので、京都府からの要望を本省にしっかりと伝えて予算を確保していきたい。国としては10年代に完成することを示すことはできないがしっかりと整備していく。網野ICまでの事業化は、京都府のやる気が大事であり府からの予算要望があれば国として支援していくとの話があった。



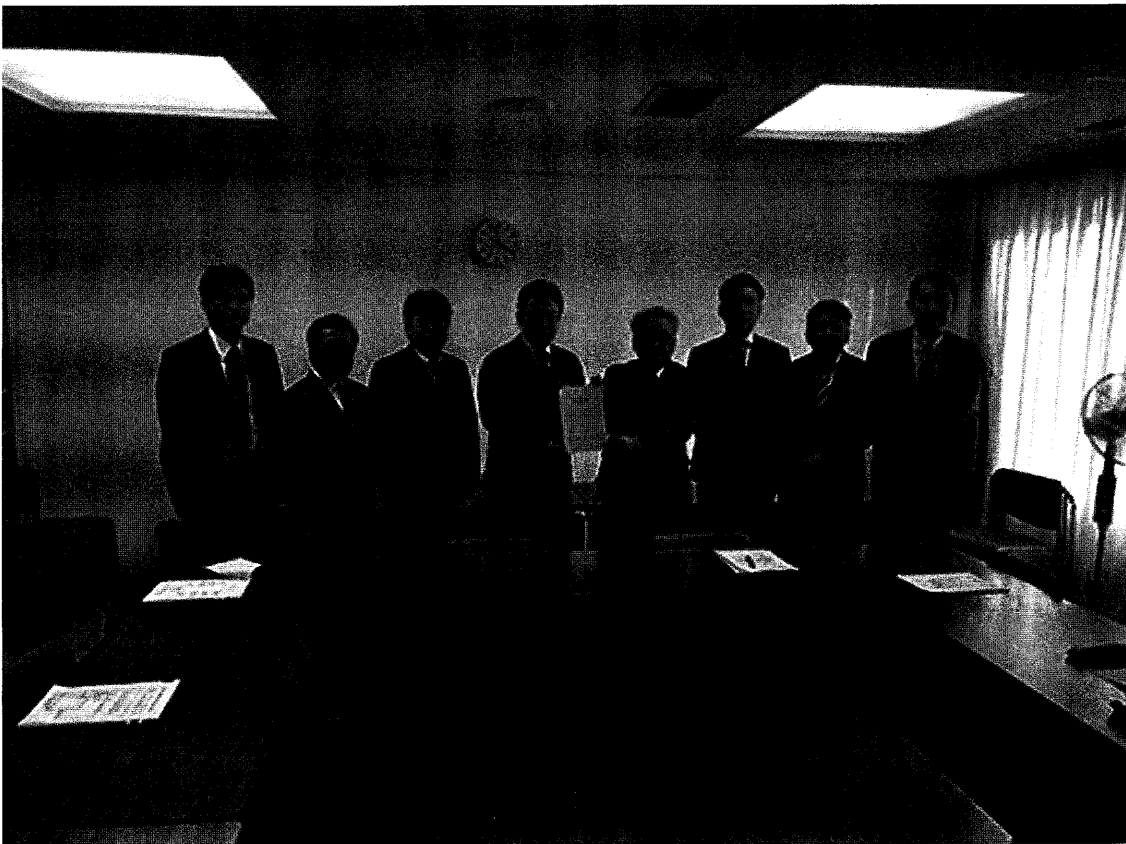
近畿地方整備局において東岡地域道路調整官に要望書の手交

### Ⅲ. 京都府建設交通部 石井弘明部長

京都府建設道路部長の石井氏を訪問。入室後、直ちに順次名刺交換をし、要望書の手交を行う。その後参加者全員で写真撮影のあと着席。池田会長から要望書に沿って①大宮峰山 IC から府県境までの全線を令和10年代に完成をするよう、具体的な整備の年次計画を明らかにすること ②網野 IC から府県境までの区間を早期にルートを確認し都市計画決定を図る ③大宮峰山 IC から網野 IC までについて、事業化の前倒しとなる文化財調査を令和7年度から開始し、令和8年度には事業化を ④大宮峰山道路及び峰山インター線を令和8年度までに完成すること ⑤防災機能向上のため、緊急輸送道路の安心・安全な通行の確保を図りたいとの説明があった。

副会長、議長の及び全参加議員からの発言があった。私からは、大宮峰山道路の早期完成と網野 IC までの早期事業化の要望。あわせて、五箇バイパス事業化推進のお礼と緊急輸送道路の早期整備の必要性について申し上げた。

石井部長からは、防衛局、近畿地整への要望に対する感謝との発言。また、山陰近畿自動車道は今年度から料金徴収している。いただいた料金を早期整備をしていきたい。大宮峰山道路は国の直轄工事で進めているが、文化財調査は京都府で進めている。体制強化をして取り組んでいく、その上で、網野～久美浜間のルートも早期に都市計画決定ができるよう進めていく。



京都府庁において石井部長に要望書の手交

#### IV. 所見

今年の山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟の要望活動として、峰山以西の事業化が決まれば、国としても具体的な支援をしていくとの説明をいただき、一刻も早い網野 IC までの事業化と兵庫県境までの都市計画決定の必要性が望まれる状況である。その上で、令和7年4月からは、上り、下りともに宮津 IC の ETC を通過すると新たな課金が発生している。このことは宮津 IC 以北について道路の維持管理費が発生しており、先線の事業化の進捗を圧迫しているとの説明であった。令和10年代中には山陰近畿自動車道路の全線開通を目指すためにも苦渋の決断として受け入れたところである。このことにより民間の新たな投資を誘発し地域経済の活性化につなげていきたいとの考え方である。しかしながら、国にとって令和10年代に全線開通を示すことはできないとの説明であった。事業の進捗は、確実な予算措置が見込まれて完成時期を見込めることであるので、理解できるところでもあるが、地元、外部資本による地域の活性化を考える時、忸怩たる思いもあるが、引き続きの頑張って要望活動に取り組んでいきたい。

#### 8 成果物、資料等

- ① 近畿中部防衛局「要望書」京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟
- ② 近畿地方整備局「要望書」京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟
- ③ 京都府道路交通部「要望書」京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟